

上毛風土記 47

唐原と多布原

穴ヶ葉山古墳や前方後円墳である能満寺古墳など唐原の地には多くの史跡があります。「やはり古代から(中国の)古代の国唐国を連想させる」「唐原」というだけあつて外との交流が盛んであつたのですか」とよく聞かれることがあります。しかし「唐原」という表記が記録に残っているのは、江戸時代に入つてからなのです。

塔里から多布郷へ
ではそれ以前は「唐原」はどう表記したのでしょうか? 現在残る資料から推測すると、古来「唐原」の地は、最も古くには正倉院文書という古代の記録にある、大宝二(七〇二)年の上三毛(後の上毛)郡塔里の戸籍にあるように、「塔里」という地名で表記されていきました。しかし、大宝二年から以後十数年の間に朝廷の方針により、地方行政組織である「里」は以後「郷」という組織に変更されました。この時に「塔里」から「多布郷」になったと考えられます。この時期に郡名も上三毛から上毛に変更されました。

そもそも、なぜ多布という文字をあてたのか不明ですが、この地



上唐原寺畑遺跡出土
百濟系軒丸瓦

朝鮮半島の百濟という国の瓦に起源をもつこの瓦は盛水や中津市相原の古代の寺跡からも出土している。

城が古来より養蚕が盛んだつたことに関係しているのかもしれない。また、「多布寺」という寺があつたともいわれており、このことを裏付けるように上唐原寺畑遺跡からは平瓦や軒丸瓦が出土しており、この唐原に古代お寺が造られていた可能性を物語ります。

多布原から唐原へ

「多布原」という地名がいつから使用されたのかは不明ですが、今からおよそ一〇〇〇年前の平安時代末には「多布原」の地名が記録に現われます。「原」には生活と結びついた平地、つまり田畑などの開墾地や集落そのものを指すといわれており、この場合「多布郷」にある「原(集落や田畑)」を「多布原」という地名で呼ぶようになったと考えられます。その後、地名である「多布原」と集落単位を指す「村」を併せ「多布原村」と呼ばれるようになります。江戸時代のはじめころの記録では「唐原」という名称に変化していますが、なぜ「唐」の字を使用したのか不明です。

空からみた唐原

唐原平野の後ろには大平山から延びる丘陵がある。この丘陵からの湧水で形成される水量が豊富な谷部とそれに続く低湿地は、灌漑技術の未熟な古代の水田開発にとって魅力的な土地であつたと考えられる。

町内には他にも百留が百富であつたり、矢方が屋形であつたりと昔と今で異なる表記をする地名が存在します。私たちが親しんでいる地名にも歴史の流れを感じる事ができるのではないのでしょうか。
教育委員会 教務課 文化財係 佐藤 信



図書館だより

げんきの杜図書館 TEL 72-1633



中国の伝統的な切り紙をわかりやすく紹介。



普通の人たちが抜き差しならない状況に陥る群像劇!

『福をよぶ中国の切り紙』

上河内 美和 誠文堂新光社

『無理』

奥田 英朗 文芸春秋

エコ生活のアイデア コツのコツ	リブリオ出版
かもの法則	西田 文朗 現代書林
霧隠才蔵 上下	火坂 雅志 角川書店
わたしのしゅうぜん横町	西川 紀子 ゴブリン書房
オチケン、ピンチ!!	大倉 崇裕 理論社

環境ポスター入選作品

唐原小4年 宮野 初実
友枝小5年 大崎 愛梨
南吉富小6年 垂永 祐理

環境標語入選作品

- ポイ捨てで 自慢の町が 泣いている
 - ホタルさん きれいな川の 管理人
 - 残したい 豊かな自然を 未来まで
- 西吉富小5年 吉田 龍晟
築上東中1年 八木 友輔
築上東中2年 宮吉 早紀